

P4-3 診療情報管理士スキルアッププラン ～資格取得を目指して～

竹島楓香¹、佐藤真弓¹、菅原裕実恵¹、金村政輝^{1,2}

1)宮城県立がんセンター診療録管理室、2)宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部

【目的】

当院の診療情報管理士は主に、診療録管理室と院内がん登録室に割り当てられているが、これまで、両室とも別々の組織として、また物理的にも離れた場所業務を行ってきた。当然のように情報共有、情報交換ではなく、どちらも診療録に携わる診療情報管理士にもかかわらず、接点は全くと言っていいほど無かった。しかし、院内がん登録室の将来的な人材不足への対応が必要となり、診療録管理室からの異動とともに中級認定者輩出に向けて活動したので報告する。

【方法】

まずは、診療録管理室員のがん登録実務初級者認定試験合格を目指し、e-learningの教材を使用して8回の勉強会を行った。初級認定後、診療録管理室から1名の異動予定となったが、3名の異動希望者がいたため3か月ずつ、院内がん登録室で研修しながら登録業務を行った。うち、1名が院内がん登録室に異動となったが、あとの2名についても継続的ながん登録研修を続けることで中級認定試験合格につながるとして、診療録管理業務を行いながらがん登録ができるよう、業務の分担を見直し、2つの室を組織的にも統合する方向で検討した。

【手順】

もともとは…
診療録管理室と院内がん登録室は別組織だった。

↓
R6年4月～ 室同士が合併（診療録管理室へ）
診療録管理業務と院内がん登録業務、両方できる人材を育てるため。

△組織自体を
変えるため、
事務方との調整にも
時間が必要だった

○診療録管理室員で話し合いを実施



＜意見＞

- ・電子データを使って業務の効率化ができるのではない
- ・会議資料・会議時間の見直し
- ・診療録管理業務を頭に入れながらがん登録の方が良いのではない
- ・休んだ人の分のフォロー
- ・他部門と重複している部分のチェックの見直し
- ・中級認定者増員は賛成
- ・登録作業をがん登録研修中の人と分担できるため、がん登録側にも余裕ができ、診療録管理業務ができる
- ・がん登録担当と診療録管理担当の情報共有が必要
- ・業務の優先順位を考えるべき 等

【診療録管理室業務】

○業務の見直しを実施

＜診療録管理業務＞

- 1 退院患者の全件監査→4項目減らした
- 2 DPCコーディング確認
- 3 退院サマリ作成状況
- 4 入院診療計画書作成状況
- 5 手術記録作成状況
- 6 未承認オーダー件数・承認依頼
- 7 多職種監査
- 8 NCD入力
- 9 未コード化傷病名確認・修正
- 10 病院情報公表データ
- 11 診療録管理部会運営
- 12 DPCコーディング委員会運営 等

算定有無の確認→記載内容の確認へ

- ・悪性腫瘍特異物質治療加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・退院時薬剤情報管理指導料
- ・廃用症候群リハビリテーション料
- ・認知症ケア加算

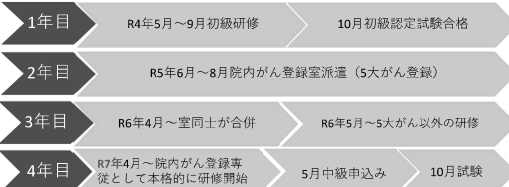
今後も
業務の見直しを
検討していく
予定

＜院内がん登録業務＞

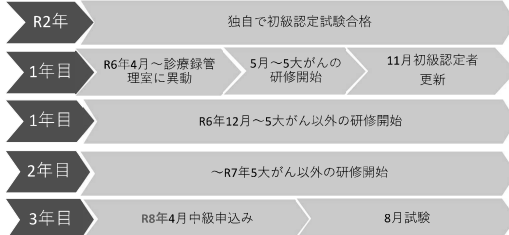
- 1 がん登録（年間 約2000件強）
- 2 予後調査（毎年調査 約6000件弱）
→マニュアル作成済
- 3 国立がん研究センターへデータ提出（毎年1年分）
→マニュアル作成予定
- 4 国立がん研究センターへ予後付きデータ提出
→マニュアル作成予定
- 5 国立がん研究センター-QI研究協力（データ提出）
→マニュアル作成済
- 6 宮城県がん登録室選り調査協力→マニュアル作成済
- 7 年間集計作業→マニュアル作成予定
- 8 生存率データ作成→マニュアル作成予定
- 9 宮城県がん診療連携協議会がん登録部会運営
- 10 東北がんネットワークがん登録専門委員会運営
- 11 院内のがん登録部会運営
- 12 院内各部署へのデータ提供
- 13 がん登録実務者育成支援事業
- 14 DPCデータ入力
- 15 日本がん登録協議会学術集会への参加

【モデルケース】

○Aさんの場合



○Bさんの場合



【結論】

診療録管理を担当している診療情報管理士であったため、電子カルテの操作や情報源の検索等についてもすでに身につけているものであり、あとはがん登録の定義等を理解するだけであった。プラン中苦労した点は業務の見直しであり、この点については、時間および労力を費やした。とはいえ業務についてはまだまだ効率化も含め、今後も見直しが必要な状況ではあるが、毎年少なくとも1名はジョブローテーションの中で、がん登録の研修を進め、中級認定者の輩出を目指していきたい。また個人のスキルアップおよび、病院にとっての人材不足解消につなげられるよう、継続性をもって実行していきたいと考えている。

日本がん登録協議会
第34回学術集会
COI開示
筆頭演者名：竹島 楓香
当演題発表表に関し、開示すべきCOIはありません